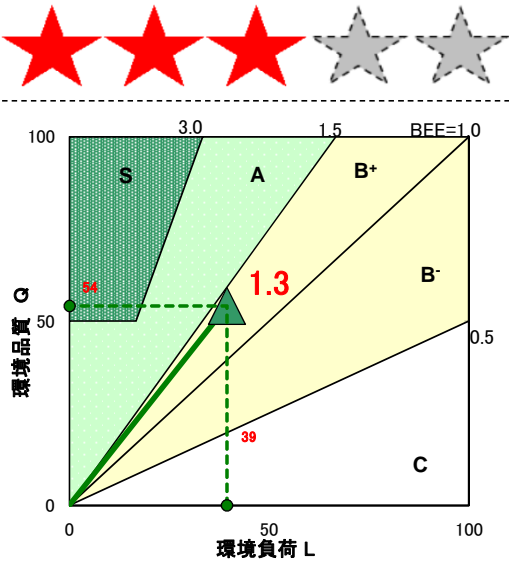


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観		
建物名称	龍ヶ岳小学校改築工事		階数	地上3F	
建設地	熊本県上天草市龍ヶ岳町高戸2795番地		構造	RC造	
用途地域	都市計画区域及び準都市計画区外		平均居住人員	180 人	
気候区分	地域区分IV		年間使用時間	2,000 時間/年	
建物用途	学校		評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2012年11月	予定	評価の実施日	2011年7月29日	
敷地面積	8,981 m ²		作成者		
建築面積	1,018 m ²		確認日	2011年7月29日	
延床面積	2,436 m ²		確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 Q: 39

環境負荷 L: 39

BEE = 1.3

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)




排出率

89%

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進 **87.7**

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **85.0**





【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全 **80.0**

【重点事項4】 循環型社会の実現 **82.5**

評価点

85

■ 熊本県重点評価基準

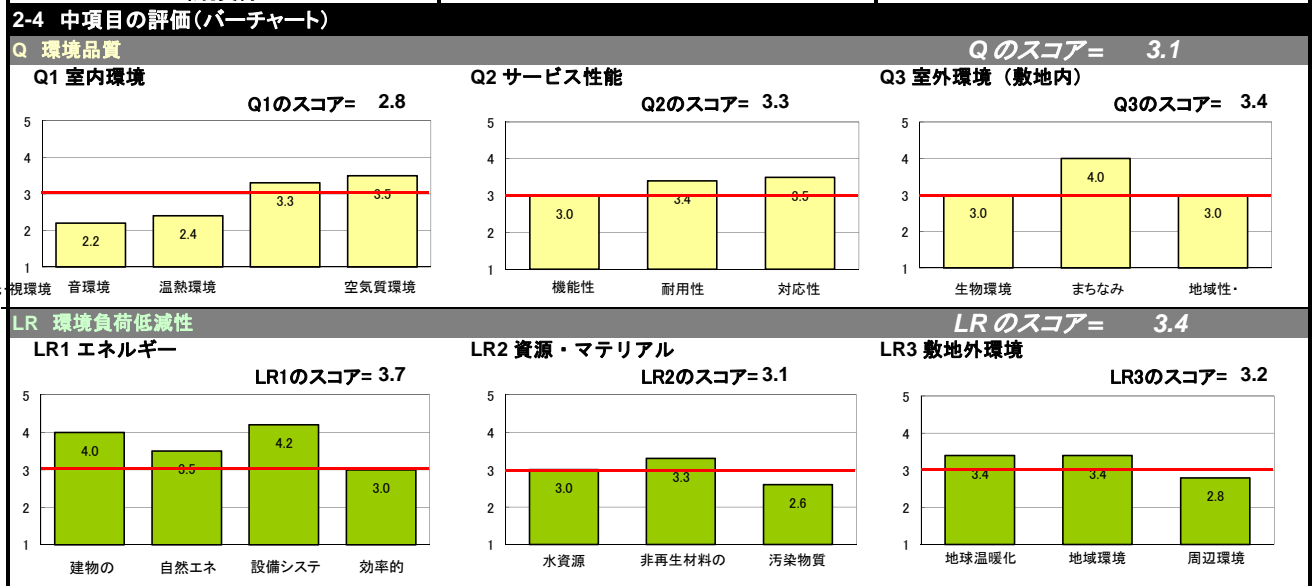
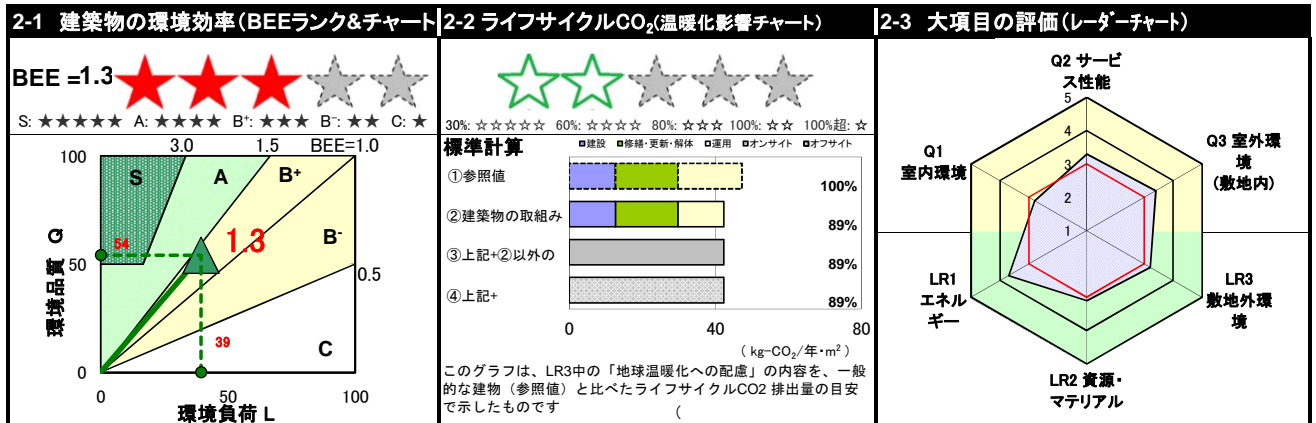
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	龍ヶ岳小学校改築工事	階数	地上3F
建設地	熊本県上天草市龍ヶ岳町高戸2795番地	構造	RC造
用途地域	都市計画区域及び準都市計画区外	平均居住人員	180人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年11月 予定	評価の実施日	2011年7月29日
敷地面積	8,981 m ²	作成者	
建築面積	1,018 m ²	確認日	2011年7月29日
延床面積	2,436 m ²	確認者	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

本件は、西に名峰 龍ヶ岳、東に八代海を臨む自然に囲まれたロケーションである。この自然エネルギーを積極的に取り入れたり、外皮面に断熱材を施したりと、環境負荷の低減を図っている。

Q1 室内環境

採光・通風などの自然エネルギーをより多く取り入れるようなしつらえを施している。
また、内装材などをF☆☆☆☆及び規制対象外の材料とし、シックハウス対策を図っている。

Q2 サービス性能

バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準に適合しており、だれでも利用しやすい建物としている。また、耐震性において、保有水平耐力を基準法の1.25倍を確保している。

Q3 室外環境（敷地内）

建物とグラウンドの間に緑地スペースを確保し、そこには、廃校となる学校の既存樹木の移植を計画している。

LR1 エネルギー

照明器具において、教室・特別教室・職員室などの大部分の部屋に、初期照度補正省エネ型タイマーセルコン機能付の照明器具を採用し、大幅な省エネを図っている。また、昇降口・多目的ホール・便所などには、LEDライトを採用している。
将来、太陽光発電設備が設置できるように考慮している。

LR2 資源・マテリアル

節水型の衛生器具の採用と、リサイクル資材の使用を図っている。

LR3 敷地外環境

外観は、シンプルで落ち着いた配色を図っている。
また、だれもが利用し易いように、屋外の施設案内板(点字仕様)を設置している。

その他

CASBEE新築(簡易版)2010年版
龍ヶ岳小学校改築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境			0.40					2.8
1 音環境		2.2	0.15	-	-			2.2
1.1 騒音		4.0	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル	45dB(A)、普通教室	4.0	1.00	-	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		1.0	0.30	-	-			
2 界壁遮音性能		1.0	0.30	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		1.0	0.20	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		1.0	0.20	-	-			
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-			
2 温熱環境		2.4	0.35	-	-			2.4
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.60	-	-			
2 負荷変動・過渡制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.40	-	-			
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 種別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		3.3	0.25	-	-			3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-			
1 昼光率	昼光率4.1%	5.0	0.60	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		3.0	1.00	-	-			
3 眩り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		3.5	0.25	-	-			3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の積極的な採用	4.0	1.00	-	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	-	-			
1 換気量		3.0	0.33	-	-			
2 自然換気性能	平均値0.259(1/10以上)	5.0	0.33	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙 喫煙室なし	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.3
1 機能性		3.0	0.40	-	-			3.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		3.0	0.50	-	-			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画		3.0	0.50	-	-			
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.4	0.31	-	-			3.4
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-			
1 耐震性	建築基準法による規定の1.25倍	4.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種にB以上を使用	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新							
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用、系統区分	4.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.5	0.29	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	階高: 4.0m	5.0	0.60	-	-	-
2	空間の形状・自由さ	比率: 0.24	4.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-	-
3.3 設備の更新性			3.1	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく更新・修繕できる	4.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺景観との調和、緑地による景観形成	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		LED照明、高効率空調の採用	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電計画	4.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化		LED照明、高効率空調の採用	4.2	0.30	-	-	4.2
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=19.7%	4.0	-	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.63	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生砕石、ビニル系床材	4.0	0.20	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法、システム床	4.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.22	-	-	2.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.68	-	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		高効率空調等の導入	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善	事前調査の実施、緑化等による熱的影響の低減	4.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	-
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-	-
2	振動		-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			2.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		2.0	0.60	-	-	-
2	砂塵の抑制		1.0	0.20	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.20	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-

熊本県重点評価結果スコアシート

0

建物名称 龍ヶ岳小学校改築工事

■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		84.6
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.7	0.40	35.08
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				85	0.20	17.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				82.5	0.20	16.50
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数